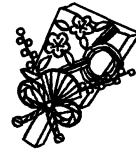


ならの木便り



新春を迎えて

穏やかに過ぎたお正月でしたが、コロナウイルスに罹患した人たちが増え始めたという報道をまた耳にしました。予想されていたこととは言え、ため息の出るような思いでした。

去年も、コロナ禍を心配しながらの短縮した運動会ではありましたが、そんなことは意に介す様子もなく、子どもたちは大活躍でした。その後、紅葉ホールで行ったお遊戯会でも、年少児から年長児まで、初めて上がった舞台にもかかわらず、怖じ気づくこともなく立派に自分の役割を果たしました。子どもたちがしっかりやり遂げられるかという職員たちの心配も、杞憂に終わったようでした。皆さんのご協力もあって、二学期の二大行事は無事に終わることができました。

コロナの流行以来、いつも不安を抱えながらの園生活ですが、寒風にも負けないで園庭を駆け回ったり夢中でお砂場で遊んでいたりと、学習に励んだりする子どもたちの様子を見てみると、とにかくコロナによる園の閉鎖は何としても避けたいと願うばかりです。その為にも、園では、この8日の土曜日に、また業者による徹底した園内消毒を行い、引続き予防に努めていきます。

年長児にとっては残り少ない園生活、楽しむはずの園の行事を規制せざるを得ない日々でした。今年こそせめて高尾山に登らせたい、そして卒園式を皆で祝うことができますように、また、年明けから始まったオミクロン株の流行の兆しが一日も早く静まりますようにと、祈るような気持ちです。

さて、我が家ではお正月の三日に、大学三年生、今年大学受験の高校生の男子、小学校2年生、年長児の女の子の四人の孫が集まりました。

この子たちが来ると、我が家の飼い猫の『みみ子』の受難が始まります。

四人とも『みみ子』が大好きでかまいたくてしょうがないようです。

自分より身体の高い人間たちに追い回されて、怖い一心なのでしょう、

必死で逃げるのを追い回して、捕まえると四人で小さな身体を撫でまわします。その時の『みみ子』の様子と言ったら、緊張して身体を硬くし、いつ逃げようかと様子を伺いながら、八方に目を配りながら迷惑そうにしております。

それで気が済むと、皆で、『海賊黒髭』と『立体忍者双六』というゲームで遊び始めました。男子二人は気を遣って、幼い二人に適当に勝ちを譲りました。ゲーム用に用意した一口チョコレートを、幼稚園児が一番沢山集めました。小さい袋に一杯になった菓子を、嬉しそうに持ち歩いておりました。

ゲームが終わった直後に、小学生と幼稚園児の孫の二人が仏壇にお線香をあげ、手を合わせているのを見て、高校生の孫が、「幼稚園の子がお線香をあげているのに、僕たちがあげないわけにいかないよな」と兄に声をかけて仏壇の前に行き、大きな身体を丸めて殊勝に手を合わせておりました。子供の頃は言われなくても仏壇に手を合わせていたのに、成長したら、いつの間にかその習慣を無くしたようでした。幼い二人の行いを見て、そのことを思い出したのでしょうか、幼い子に教えられたようでした。

仏壇に手を合わせると言うことは、自分をご先祖に守られているという安らぎの心や、悪いことは出来ないという気持ちを持つことに通じるのではないかと思います。大きな手術などをするとき、医師は患者に向かって、何か宗教を信じているかを問うことがあると聞きました。

信仰を持っている人は、生死の境にあるときなどや、重い病に苦しんでいるときなど、回復が早かったりする確率が高いということでした。

自分のルーツである先祖を大切に思い、ご先祖様が守って下さると言う意識をいつも心に持っていることで、何か辛いことにであったときに大きな救いになるような気がします。宗教やご先祖に限らず、何か守らなければならないものを持ったとき、人は強くなるのだと思います。

仏壇に手を合わせる孫たちを見ながら、この孫たちに限らず、園児たちが、自分の信じる道、あるいは守らなければならないものを得て、他人に迷惑をかけることもなく充実した日々を送って欲しい、と新年にあたって思いました。

浜野和子